

一九五八年八月二十五日
発行印刷



第41卷 第5号

史学・地理学・考古学

- 古代地方組織発展の一考察…………… 八 木 充 (1)
 ——大和朝廷・皇室の支配を中心に——
- 崑崙四水説の地理思想的考察…………… 海 野 一 隆 (27)
 ——仏典及び旧約聖書の四河説との関連において——
- フリードリッヒ・ナウマンとその時代…………… 三 宅 正 樹 (42)
 ——ワイマール・デモクラシー成立前史——
- 北魏末の内乱と城民 (下) …………… 谷 川 道 雄 (59)

動 向

- 中国考古学の諸問題 (⇒) …………… 水 樋 野 口 清 隆 一 康 (76)

書 評

- 相田二郎：蒙古襲来の研究 …………… 上 横 手 雅 敬 (84)

大会予告・例会予告

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会

史学研究会大会 予告

左の日程で本会及び読史会・東洋史談話会・西洋史読書会連合大会を開催いたします。多数御参加下さいますよう御案内申し上げます。

◇十一月一日(土) 午前八時半～午前五時

見学 京都の襖絵見学

講師

京都工芸繊維大学教授 土居次義氏

見学予定場所 智積院・建仁寺(靈洞院・禪居庵)・大徳寺(本坊・聚光院・黄梅院)・大覚寺

(以上バスにて巡回)

参加会費 三五〇円程度

※参加御希望の方は会費を添えて十月十五日までに御申込下さい。当日御申込の受付はいたしません。なお都合により見学場所に若干の変更があるかも知れません。あらかじめお含みおき下さい。

◇十一月二日(日) 午後一時より

史学研究会大会及び総会

於 京都大学法経第五教室

(講演) 筑前沖の島の祭祀遺跡

九州大学教授 鏡山 猛氏

元代知識人の二類型

京都大学教授 安部 健夫氏

インドシナの土地と人

慶応義塾大学教授 松本 信広氏

晚餐会

於 京大楽友会館

◇十一月三日(祝)

読史会・東洋史談話会・西洋史読書会大会及び晚餐会

※地理学談話会大会は、人文地理学会の行事と重なりますので、本年も開催いたしません。

(備考) 各大会の詳細なプログラムは十月下旬次号(四一巻六号)ともにお送りいたします。なお会員の方で、大会出席のため公用出張依頼状の必要な方は、なるべく早く本会宛御連絡下さい。

会員各位

史学研究会

支配系統の改新なくてはその上に立つ天皇支配の確立は不可能であつたといふべきである。皇室勢力は蘇我誅滅後急転直下、自己の伝統的藩屏だつた東国・六県で、一旦の補強と一躍の再編を行うのである。しかしそれは手段であつて皇室支配組織の全国化運動ではなからう。天皇が機構を奪回し続いて朝廷支配組織の全国的拡大を意味する改新詔を宣言するのである。もし、皇室と朝廷との地方組織が同質的であつたなら、東国で再編後、全国的に、という改新の順路は不要ではあるまいか。従つて蘇我氏の崩壊は、かれの主導する組織の否定ではなかつたのであり、一价の官僚としての没落を意味すると解して不可ではない。

(4)、ここに支配者内部の対立は揚棄されたのであるが、それはかつての連合政權に占めた天皇權威の復活ではない。改新が天皇による統一的支配機構の集中的把握であるところに根本的な差異と改新の歴史的意義が評価できると考へる。それは古代天皇制の新しい装いといつてよいであらうか。本稿の目的はその歴史的前提となる一面の事実を指摘することにあつたのである。

史学研究会例会予告

九月例会 九月廿七日(土) 午後一時出発

臨地講演 醍醐寺・法界寺

講師 上野照夫氏

(参加会費一五〇円・九月二十日までに会費を添えて御申込下さい。但し満員次第メ切)

十月例会 十月四日(土) 午後一時より

於 京大築友会館

現代史の諸問題

第一次世界大戦と日本の参戦 井上清氏

新航路のバランス・オブ・パワー 岡部健彦氏

(東洋史は交渉中)

会費納入についてお願い

最近会員各位の会費納入が目立って低下し、滞納額が急増しつつあります。このことによりまして会活動は重大な影響を受けております。また前号と共にお届けしました「総目録」の頒価は、文字通り原価を割つたものでありまして、全員の会費完納に加うるに相当部数非会員の方にも頒布して漸く取支相償うものであります。この辺の事情御賢察いただきまして、会費滞納の向には至急納入下さいませう。特に御願いたします。尚又「総目録」を御知合の方々に御推薦いただけますと幸甚に存じます。

史学研究会

あとがき

われわれはこうして、大戦前すでに、フリードリッヒ・ナウマンにおいて、議会主義と議会多数派結成への呼びかけがはつきり提出されていることを知り得た。しかし、一九一七年の「平和決議の議会議多数派」と、ワイマール連合には、ナウマンによつてさんざん攻撃された中央党が、民主的陣営の一員として加わつてゐる。この間の事情を理解するためには、中央党の左翼にあつて、カトリック労働者と農民の意向を代弁したエルツベルガー^①の指導力が、中央党を左旋回させたことを考えなければならぬ。また、社会民主党が、中央党や左翼自由主義政党の後身たる進歩人民党、のちにはナウマンをその総裁と仰いだ民主党と提携するにいたつたのは、帝政の廃止すら肯んじなかつた程既成秩序に忠実であつたエーベルトのような人物が社会民主党の指導者となつたことが、一般的な修正主義の流れとともに大きく作用していると考えられる。そういう意味では、社会民主党は、ナウマンの望んだ路線まで右傾して、ナウマンの主張通りに国民的になつたといえよう。^②ともかく「バッサーマンからペーベルまで」のよびかけから、ワイマール連合におけるその事実上の実現までの推移をたどるためには、より詳しい政治史的とり扱いを必要とする。ここでは、ナウマンのこのような主張の成立事情

を一通りたずね終えたところで筆をおかなければならない。

① Rosenbergs, a. a. O. S. 148.

② この点に関しては、Hermann Heidegger, Die deutsche Sozialdemokratie und der nationale Staat, 1870-1920, 1956及び、川井修治「社会主義と国民主義」鹿兒島大学文科報告第六号、昭和三十二年参照。

執筆者 紹介

八木 充	京都大学大学院学生
海野一隆	大阪学芸大学助教授
三宅正樹	京都大学大学院学生
谷川道雄	名古屋大学助手
水野清一	京都大学教授
樋口隆康	京都大学助教授
上横手雅敬	京都大学講師

人物

叢書

日本歴史学会編集

人物叢書は、編集、校正等をあくまで入念にし、最善を期します。また、発行を延期してまいりました。左の五冊を発売いたします。

・九月発売・

明智光秀
近松門左衛門
鴻池善右衛門
西郷隆盛
坪内逍遙

高柳光寿 三〇〇円
河竹繁俊 二八〇円
宮本又次 二二〇円
田中惣五郎 二四〇円
大村弘毅 二三〇円

学界総動員の陣容・全三〇〇冊

吉川弘文館 振替東京 244
千代田区 神保町3/19

世界各国史

全十四巻

—編集—

弓治郎 衛郎 博俊 次夫 忠郎
真幸太 文陸 水達 信良 本太郎
大井健問 田来水 上波 梅田 坂
角今清 鈴山前江 坂

(巻数順)

Ⅰ イギリス史 三〇〇
Ⅱ フランス史 三〇〇
Ⅲ ドイツ史 三〇〇
Ⅳ ロシア史 三〇〇
Ⅴ 南欧史 三〇〇
Ⅵ 北欧史 三〇〇
Ⅶ 中米史 三〇〇
Ⅷ 中東史 三〇〇
Ⅸ 中国史 三〇〇

Ⅺ 西アジア史 三〇〇
Ⅻ 北アジア史 三〇〇
ⅩⅣ 日本史 三〇〇

内容進呈
全巻見本

最近刊好評発売中

Ⅲ 東欧史 四五六頁
Ⅴ 東欧史 四五〇頁

※次回ⅩⅠインド・東南アジア史

をもって完結

振替東京 43993
山川出版社

田町 神土 東美

編集後記

ことしの夏はきびしい暑さでしたが、会員の皆さまにはお元気にそれぞれ多休暇をすごされたことと拝察いたします。難航してありました本号の編集もようやくおわり皆様におとどけするはこびとなりました。ただ前号でおことわりしましたように、谷川氏の論文は3号に引続いていたのでありますが、編集上の都合から不意ながら本号に掲載せざるを得ませんでした。ここに筆者ならびに会員各位に御迷惑をおかけしたことをおわび申し上げます。

頁数不足はもはや最後の段階にまでたち至りましたが、来年からは具体的には未決定ながら増頁の計画も立てておりますので、会員各位の御寄稿によつてなおいつそ本誌が充実することを期待します。地味ながら、充実した内容の本号を無事に皆様の爽涼の灯下にお送りすることを嬉しく思います。

(押野昭生)

史林 (第四一巻 第五号)

一九五八年八月二五日印刷
一九五八年九月一日発行

定価 百円

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事 長 宮崎市定
編集主任 赤松俊秀

振替 京都五一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区西七条御所ノ内東町三九

900 /

THE SHIRIN

or the
JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLI NO. 5

Sep., 1958

CONTENTS

Articles :

- A Study of the Development of the
Local System in Ancient
Times in Japan *A. Yagi* (1)
- A Geographical Research on the Legend
of Mt. *K'un Lun* and its Four Rivers..... *K. Unno* (27)
—In Comparison with Similar Buddhist
and Christian Legends—
- Friedrich Naumann and his Age..... *M. Miyake* (42)
—Prelude to the Weimar Democracy—
- Rebellion and *Ch'êng Min* (城民)
at the End of the *Pei Wei* (北魏)
Dynasty (2) *M. Tanigawa* (59)

Note :

- Problems on the Chinese Archaeology
of Today (2)..... *S. Mizuno*
T. Higuchi (76)

Book Review ;

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan